

西東京三田会 歴史散歩の会

第7回

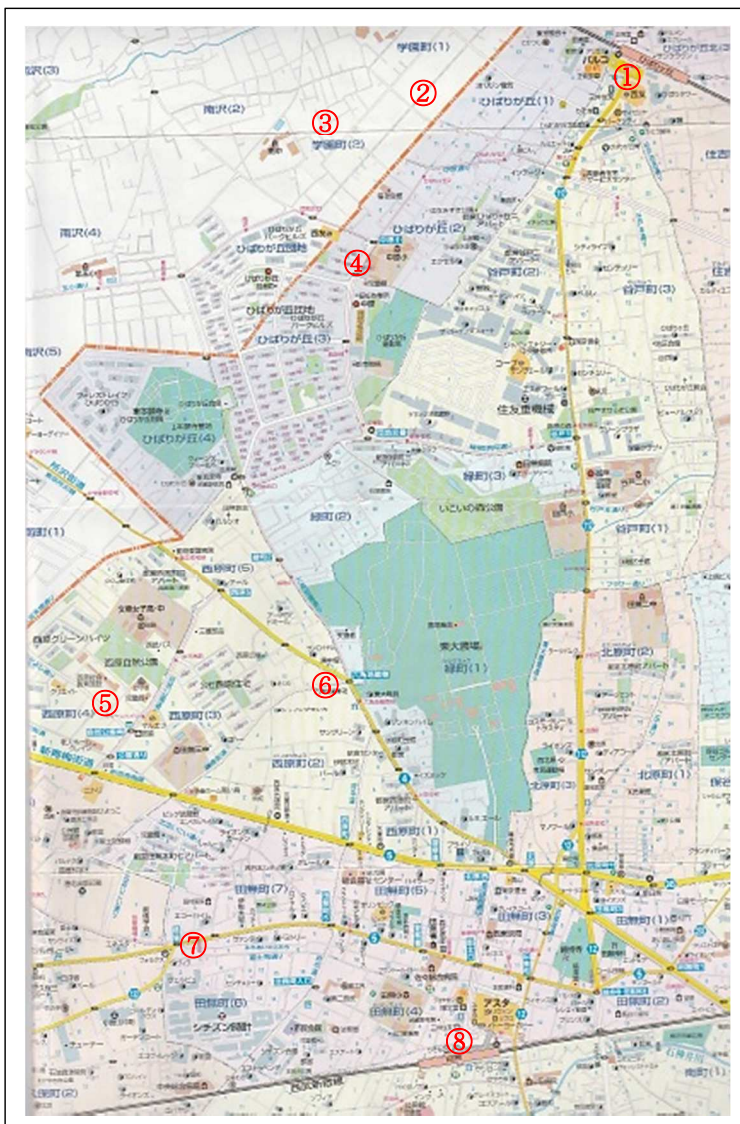
2016年10月2日

市域西北辺を訪ね歩く

第1回：日蓮宗下保谷村を歩く、第2回：上保谷四軒寺を歩く、第3回：縄文時代から近代戦争遺跡までを歩く、第4回：西東京南部を歩く、第5回：宿場町田無を歩くまで西東京市域を回りましたが、小平市の会員も居り、第6回：小平の源を訪ね歩く、でした

今回は西東京市域で残されていた西北部を歩きます。歩行距離約6～7キロと長いですが、ひばりが丘駅と田無駅を結ぶバス路線が近くにありますので途中リタイア可能です

概略予定行程



- ①：ひばりが丘駅南口
集合・出発地点
出発は9時30分
- ②：自由学園
1934この地へ、特異教育
- ③：中島航空金属引込線跡
- ④：ひばりが丘団地
「ひばりが丘」とは
- ⑤：西原総合教育施設内
「郷土資料室」
下野谷遺跡出土品見学
(時間により省略あり)
- ⑥：石幢六角地蔵尊
(市指定文化財第1号)
- ⑦：田無用水
- ⑧：田無駅、12時頃着

概要

①：ひばりが丘駅

当初は武蔵野鉄道「田無町駅」（住所は住吉町） 大正13年保谷駅の次の東久留米駅との中間点に新設された。ひばりが丘駅への改称は「ひばりが丘団地」造成の昭和34年

②：自由学園

女性思想家の羽仁もと子と羽仁吉一の夫婦によって1921年（大正10年）、キリスト教精神に基づいた理想教育を实践しようと現・豊島区に設立され、1934年に校舎を東京府北多摩郡久留米町（現・東久留米市）に移転し、現在にいたる。

寮生活し、キャンパスの維持管理は生徒の手によって行われ、毎日の生活を生徒自身が責任を持って行う自労自治の精神に基づく独自の教育方法で知られている。

東京都選定歴史的建造物として東久留米キャンパス内に次のものがある。

初等部食堂、女子部食堂、女子部講堂、女子部体操館、男子部体操館

③：中島航空金属引込線

戦時中、現在のひばりが丘団地付近に中島航空金属田無製造所があり、西武池袋線・東久留米駅から引き込み線があった。

群馬県太田にて発祥した中島飛行機は、東京に進出して機体は群馬、発動機（エンジン）は東京近郊と地域を分け事業展開（1938年には、本社を東京に移転）。東京近郊でのエンジン主力工場は、北多摩郡武蔵野町にあった武蔵製作所。以前よりこの中島飛行機の田無試運転工場が田無町谷戸に開設されていて、1938年（昭和13年）隣接地に、中島飛行機田無鋳鍛工場が開設され、ここが翌年に中島航空金属と改称。

鋳造に必要な大量の砂運搬が、人力では限界になり東久留米駅から引き込み線が敷設された。動力などいろいろ説あるようだが確実な資料はない。

（なお、終戦間際、武蔵製作所と中島航空金属との引込線跡は第3回時に触れた）

終戦後、線路自体は残り東久留米、保谷、田無にまたがる「ひばりが丘団地」建設時は、資材運搬線として活用されたとの記録もある由。なお、この中島航空金属の用地の一部が、「ひばりが丘団地」に転用されている。（いかに広大であったか）

④：ひばりが丘団地 → 「ひばりが丘」の拡大

明治以前には、武蔵国新座郡下保谷村に属していた旧保谷市地域。田無村と前沢村、南沢村の間に入り込んだいびつな形をしていたが、これは享保年間に開墾された新田（下保谷新田）であったため（高橋邸裏の古地図参照）。下保谷新田時代は下保谷から上保谷域を挟んだ飛び地で、子字は北原、中原、南原、大南新田だった。

1959年（昭和34年）ひばりが丘団地の造成、入居が開始され、田無町駅をひばりヶ丘駅に名称変更するなどしたが、そもそも名称を「ひばりが丘」としたいきさつは不詳。団地の域は、旧保谷市、旧田無市の両方に跨っていた。その後町名整理などで「ひばりが丘」の使用は地域を拡大し、旧保谷域在住の中学生は田無域を横切って上保谷の字「上宿」にある「ひばりが丘中学校」に通学している。

⑤：郷土資料室（旧西原第二小学校を「西原総合教育施設」化してその中にある）

西東京市の遺跡の全容、国史跡となった下野谷遺跡出土品の大量展示、様々な昔の道具展示、なつかしの写真展示などがある。第3回時に歩いた「下野谷遺跡公園」は、今は、遺跡そのものは埋められており、平凡化しているが、ここで出土品や調査時状況などを見学することにより縄文時代の大集落が想像できる。

⑥：石幢六角地藏尊

江戸時代、安永8年（1779）建立のもの。6本の分かれ道に立ち、六道輪廻を救済する地藏菩薩を各面に一体ずつ浮彫りし、脚部にそれぞれの道の方向を示す道標が刻まれている。近年になって、あちこちに小移動させられている。

近くに青面金剛庚申塔（各所で勉強した）もある。

⑦：田無用水

田無用水については、「宿場町田無を歩く」で勉強した